

第34回理事会、第12回評議員会を開催しました

当財団「第34回理事会」を6月8日、電通銀座ビルにおいてオンライン会議として開催しました。また、6月25日に帝国ホテルにおいて「第12回評議員会」をリアル会議とオンラインによるハイブリッド形式で開催しました。

「第34回理事会」の議案は「2020年度事業および決算報告に関する件」「評議員会に推薦する理事候補選任の件」「選考委員新

任者選任の件」「理事・監事・評議員及び顧問の報酬等支給基準規程」改定の件」の4件で、すべて原案どおり承認されました。

「第12回評議員会」の議案は「2020年度事業および決算報告に関する件」「任期満了に伴う理事選任の件」の2件で、いずれも原案どおり承認されました。

貸借対照表
2021年3月31日現在

科目	金額 (単位：千円)
I 資産の部	
1. 流動資産	333,493
2. 固定資産	
(1) 基本財産	20,433,845
(2) 特定資産	10,965,590
(3) その他固定資産	261,446
資産合計	31,994,377
II 負債の部	
1. 流動負債	62,003
2. 固定負債	57,912
負債合計	119,915
III 正味財産の部	
1. 指定正味財産	29,540,497
2. 一般正味財産	2,333,964
正味財産合計	31,874,461
負債及び正味財産合計	31,994,377

正味財産増減計算書
2020年4月1日から2021年3月31日まで

科目	金額 (単位：千円)
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	386,841
特定資産運用益	91,470
受取寄付金	68,771
雑収益	837
経常収益計	547,921
(2) 経常費用	
事業費	469,609
管理費	82,901
経常費用計	552,511
評価損益等調整前当期経常増減額	△4,590
評価損益等計	44,191
当期経常増減額	39,601
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	4,590
(2) 経常外費用	0
当期経常外増減額	4,590
当期一般正味財産増減額	44,191
一般正味財産期首残高	2,289,772
一般正味財産期末残高	2,333,964
II 指定正味財産増減の部	
基本財産運用益	364,649
特定資産運用益	168,170
特定資産売却償還益	28,839
基本財産評価損益等	7,414,539
特定資産評価損益等	1,000,680
一般正味財産への振替額	524,890
当期指定正味財産増減額	8,451,988
指定正味財産期首残高	21,088,508
指定正味財産期末残高	29,540,497
III 正味財産期末残高	31,874,461

2020年度助成研究集の刊行

当財団は、2020年度(第54次)の助成研究成果の要旨をまとめた『助成研究集(要旨)』を刊行しました。掲載されている研究テーマ等は以下のとおりです。

助成研究成果の全文は当財団の広告

図書館内で、また概要は同図書館ホームページから検索・閲覧いただくことができます。なお、本誌のPDF版は、当財団のホームページ上でご覧いただけます。



2020年度(54次)助成成果一覧

【常勤研究者の部】

代表者氏名	代表者現職	研究テーマ
【継続研究】 井上 由里子 他3名	一橋大学大学院 法学研究科 教授	商標訴訟の証拠としての消費者アンケートの設計手法の研究 ～マーケティング研究と法学の融合によるアプローチ～
圓丸 哲麻	大阪市立大学 経営学研究科 准教授	消費者基点の「百貨店らしい」広告表現のあり方 ～大型小売業における百貨店の同質性と競争優位性の源泉を求めて～
狩野 芳伸	静岡大学大学院 情報学部行動情報学科 准教授	メタファーの自動生成による意味的な重ね合わせのある キャッチコピー生成器の構築
【継続研究】 川村 洋次	近畿大学 経営学部経営学科 教授	消費者の関与を獲得する広告技法の分析
【継続研究】 佐々木 裕一 他2名	東京経済大学 コミュニケーション学部 コミュニケーション学科教授	社会的空間を分析視点に据えたモバイル動画視聴の利用 および効用実態の把握 ～5G導入も視野に入れて～
【継続研究】 杉谷 陽子 他2名	上智大学 経済学部経営学科 教授	広告への好意度の国際比較研究 ～ズームイン/ズームアウト型認知と広告表現～

【大学院生の部】

代表者氏名	代表者現職	研究テーマ
青木 哲也	一橋大学大学院 経営管理研究科 博士後期課程	企業タイアップ型動画コンテンツと プラットフォーム内広告の相互作用
片倉 葵	東京都立大学大学院 システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域 博士後期課程	大正期における紙小箱の図案の広告的機能についての研究
【継続研究】 多田 伶	大阪大学大学院 経済学研究科 博士後期課程	情報過多時代に求められるコミュニケーション戦略 ～消費者への最適な接近方法とは～
藤浪 遼太郎	明治学院大学大学院 心理学研究科 博士後期課程	広告における上司・部下のジェンダーと 消費者の商品評価と購買意図に及ぼす影響
劉 玉婷	早稲田大学大学院 商学研究科 助手	字幕付き動画広告に対する消費者の知覚 ～視聴環境の違いに注目して～

2022年度研究助成 募集のお知らせ

吉田秀雄記念事業財団では、2022年度研究助成の募集を開始します。広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーション等の研究を対象に審査の上、助成金を給付します。併せて助成対象者が一定の枠内で利用できる消費者調査を提供します。提出された研究成果の中から優れた研究に「助成研究吉田秀雄賞」を授与します。応募の締切は、2022年1月11日です。

1. 研究助成の目的

“広告・広報・メディアを中心とするマーケティングおよびコミュニケーション等”に関する研究助成を通じてその理論・技術および知識・情報の普及・発展を図り、もって学術・文化・経済の持続的発展および一般消費者の利益の増進に資することを目的としています。

2. 助成対象者・助成金額・件数

上記分野の研究に携わる研究者で、助成を受ける期間中、大学に所属する者。

(1) 常勤研究者の部

[対象者] 大学に在職する助教以上の常勤研究者(個人またはグループ研究)

[助成金額] 単年研究300万円以内/件
継続研究400万円以内/件

[件数] 10件程度

(2) 大学院生の部

[対象者] 博士後期課程に在籍する大学院生(個人またはグループ研究)

[助成金額] 単年研究50万円以内/件
継続研究60万円以内/件

[件数] 10件程度

3. 研究課題

(1) 自由課題(上記分野に関連する研究課題を自由に設定)

(2) 指定課題

①消費者との効果的なコミュニケーションを行う方法に関する研究

②広告・コミュニケーション研究やマーケティング研究の新たな方法論の開発につながる他領域における関連研究

③パンデミックがもたらしたインパクトに関する研究

4. 研究期間

(1) 単年研究…1カ年以内 (2) 継続研究…2カ年以内

5. 研究支援のための消費者調査

当財団では、助成対象者が利用できる消費者調査を実施します。

6. 選考方法

13名の選考委員により選考の上、2022年3月下旬開催の当財団理事会で決定します。

7. 結果の発表

2022年4月上旬に応募者あて個別に採否を通知します。

8. 研究成果の報告

常勤研究者の部では3万字程度以上、大学院生の部では2万字程度以上の研究成果を期限までに提出。

9. 応募手続き

(1) 応募方法

当財団の研究助成システムに登録の上、マイページからお申し込みください。詳細は当財団ホームページで確認いただけます。

(2) 応募期間

2021年11月1日(月)～2022年1月11日(火) 必着

(3) 応募先・問い合わせ先

公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団

10. 助成研究吉田秀雄賞

優れた研究には選考委員会の審査により「助成研究吉田秀雄賞」が授与されます。

Editor's Note

転職話を耳にした。子育て中の男性が、報酬が減っても17時に退社可能な近隣の職場を選んだ。夫妻の生家・実家が北海道、九州と遠く、両親の手助けが難しいとのこと。実力のある人こそ、ライフステージに応じて自由度が高く、仕事を選ぶ時代ですね。(傾)

今回の東京オリンピック・パラリンピックの日本選手の結果は、これまででない好成績で熱狂しました。特に印象的だったのは「試合を楽しめた」という選手のコメントが多かったこと。それが良い結果につながったのだと思います。(葡萄)

コロナ禍を通してテレワークやオンライン会議が瞬く間に一般的になりました。この変化が単なる効率化にとどまらず、雇用形態間の格差、人手不足、地方の衰退、少子化など諸課題の解決に少しでもつながることを願ってやみません。(ひろた)

AD STUDIES 2021年9月25日号 通巻77号
公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
〒104-0061
東京都中央区銀座7-4-17 電通銀座ビル
TEL : 03-3575-1384 FAX : 03-5568-4528
URL : <http://www.yhmf.jp>

発行人 岩下 幹
編集長 布施博嗣
編集部 岩本紀子、沓掛涼香
編集協力 プレジデント社
表紙デザイン 八木義博・藤田将史、中谷晴子(Creative Power Unit)
撮影 片村文人

本文デザイン 南 剛(中曽根デザイン)
校正 株式会社ヴェリタ
印刷・製本 大日本印刷株式会社

©公益財団法人 吉田秀雄記念事業財団
掲載記事・写真の無断転載を禁じます。